

# ケニアの食品包装産業の現状

食品流通アドバイザー

(公益社団法人 日本包装技術協会 技術参考)

田中技術士事務所 代表 田中 好雄

Y. Tanaka

成田から開空を経由してカタル航空で14時間20分、中東カタルのドーハへ、ドーハで乗り換えて同じくカタル航空で5時間20分、目的地のジョモケニアアッタ国際空港へ、ケニアの首都ナイロビは海拔1,700mと高地にあるため11月の気温は13℃～23℃と肌寒い程である。

首都ナイロビはマサイ族の言葉で「冷たい水」という意味で、アフリカとは思えない年間平均気温18℃前後の住みやすい土地である。公用語はスワヒリ語と英語で人口は4,500万人(2014年/世界銀行)(ナイロビは310万人(2009年/ケニア統計局))、面積は58万㎡(日本の約1.5倍)、国民1人当たりのGDPはUS\$1,290(2014年/世界銀行)、経済成長率は5.3%(2014年/世界銀行)、物価上昇率は6.9%(2014年/ケニア国家統計局)、宗教はキリスト教、イスラム教などで1963年に英国から独立した。

主要産業はコーヒー、紅茶、園芸作物(花卉、サイザル麻、綿花、トウモロコシ、除虫菊)、食品加工(蜂蜜、ヒマワリ油、ビール、砂糖)、タバコ、セメント、石油製品、ソーダ灰、ほたる石などで、2014年の輸出額はUS\$約58億で園芸作物、紅茶、衣料品・アクセサリー、ソーダ灰、鉄鋼、コーヒー、輸出国はウガンダ、英国、タンザニア、オランダ、米国など、輸入額はUS\$約114億で石油製品、産業用機械、原油、自動車、輸入国はアラブ首長国連邦、インド、中国、南アフリカ、日本、英国、米国である。

ケニアは東アフリカ共同体(EAC)諸国の中でもビジネス環境、教育水準、インフラ整備が比較的優れている。ケニア製造業の特徴は、食料・飲料サブセクターが圧倒的に強く、サブセクター別付加価値額が全体の38%を占め、その中

で「包装技術」は国が重点政策としている農産物加工並びに輸出振興と深く関連する技術である。ケニアの包装材料構成比としてはプラスチック45%(PETボトル用など)、ガラス10%(ビールびん用など)が高い比率を示している。そしてその生産額はケニア国GDPの2%を占めるが、これはまだ低い数字である。なぜならば、包装産業がその国の経済指標を表すためである。

包装機械はインド、中国などからの輸入品に限られ、これを取り扱うエージェン트가存在する。また、包装材料の原料となるPE(ポリエチレン)、PP(ポリプロピレン)などのポリマー、原紙は中東、EU、米国などからの輸入品で賄われ、それらを加工して製品化するコンバーター(印刷・貼り合わせ・スリット・製袋をするメーカー)、成形品加工、段ボールメーカーが多数存在し、製品を直接SMEs(零細起業家)に販売するか、またはエージェン트가、卸売業者を介して入手することができる。

ケニアの現状から可能性のある商品として考えられるのは、乾燥食品(ナッツ、チップス、コーヒー、紅茶、ドライフルーツなど)、水産物(オメガ、ナイルパーチ、テラピアなどの淡水魚)、ソフトドリンク(ジュース、豆乳)、乳製品(牛乳、ヨーグルト、チーズ、バター)、畜産製品(羊、山羊、牛、鶏、豚肉を利用したハム・ソーセージ、ジャーキー、サラミなど)、ワイン、蜂蜜、ジャム、サンフラワー・ココナツオイル、アマランサスなどが挙げられる。



ケニア産プラスチックパッケージング